【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	静岡県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	伊東市立南小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	３	３	４	３	３		２０	２６
児童数	１２７	１１７	１１１	１３５	１０９	１２０		７１９	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

さがそう自分！ ふれ合おう他と
～確かな学力の向上を目指した、算数科からのアプローチ～

２．研究内容と方法

（１）実施学年・教科

・《実施学年》　　１～６年
・《算数》　　算数
・《選択した理由》
　児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、個別指導が必要な教科である。そのため、習熟度別学習や課題別学習を組みやすい。
　中学校との意見交換の中で小学校で算数の基礎基本が定着していない生徒は確実に中学の数学の授業についていけない実態があり、何とか改善したい。
　本校においても、３年生から成績の二極化が見られはじめている実態がある。

（２）年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ　さがそう自分！　ふれ合おう他と ～確かな学力の向上を目指した、算数科からのアプローチ～ ○研究の見通し（仮説） ・南小としての確かな学力を定義し、学力向上のための指導体制を研究、実践することで、南小の研修すべき方向性を見つける。 ○研究の内容・方法 ・１学期　確かな学力の定義、講師を招いての授業研究(２),全学年習熟度実施 ・夏休み　習熟度・課題別の年間計画作成、２学期の方向性（評価・授業改善） ・２学期　夏の研修を受けて講師を招いての授業研究（２）、算数掲示板整備 ・冬休み　年間計画の手直し、３学期・来年度の方向性（Ⅲ－２参） ・３学期　学力定着テスト、算数アンケート、中間発表会（２学年公開）

平成16年度	○テーマ　さがそう自分！　ふれ合おう他と ～確かな学力の向上を目指した、算数科からのアプローチ～ ○研究の見通し（仮説） ・今後の課題に示した４つの柱を研究、実践することで、確かな学力は向上する。 ○研究の内容・方法 ・１学期　学力定着テスト、算数アンケート、講師を招いての授業研究 ・夏休み　年間計画手直し、２学期の重点確認 ・２学期　学力定着テスト、算数アンケート、講師を招いての授業研究 ・冬休み　発表会の事前研究 ・３学期　学力向上フロンティア発表会

（３）研究推進体制

・学校評価をへて来年は、下のような組織となった。

学力向上フロンティア
- 学習指導部
  - ○算数主任
  - ・学年１
  - ・のびっこタイムの計画
  - ・学習環境（算数掲示板の活用）整備
  - ・学習習慣の徹底
  - ・学力定着テストの計画
  - ・算数だよりの発行（算数主任）
- 研修推進部
  - ○研修主任
  - ・学年１
  - ・算数アンケート実施と考察
  - ・授業研究の計画・推進
  - ・研究構想の立ち上げ
  - ・授業改善の推進

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・本校では、ようやく学力が向上したのか、子供の意識がどのように変化したのかを客観的なデータをもとに示そうと取り組みはじめたところである。（Ⅴの通り）
４月に指定を受けてから、まずは各学年が学力の向上を目指して工夫して取り組んでみることを第一に考えて授業研究を進めてきた。冬休みの研修を終えたころには、本校の目指す姿と柱（来年度の方向性）が共通理解された。各学年に置く大きな移動式の掲示板が作られ活用されるようになったり、学年団で作業を手伝う姿も見られるようになった。日常的に評価の話がなされるようになり、テスト後の定着の様子も学年で話されるようになった。もちろん授業の進め方も学年で合わせる部分が増えている。
２学期の後半からは、教師の意識は授業の中身の方に移り、自分の考えをもつ、自分の考えを話す、友達と関わる事の重要性を感じるようになり、工夫するようになった。教師の意識が変わることによって子供たちにも活力が出てきた。
来年に向けての土台作りができあがったことは、大きな成果である。

２．今後の課題

①学力を向上させるための、指導体制のあり方
・教員数の関係で、学級数＋１の教員で指導にあたる学年がほとんどである。定着の遅い子たちを少人数で指導するためには、他のコースの人数が増えてしまう。
例えば５年のわり算では、Ａコース５０人、Ｂコース３６人、Ｃコース２２人で始めたＣコースはＴＴで指導し、途中からはＣの中も習熟度で８人と１４人に分けた。結果的にＴＴの子は伸びたが、ＡやＢの子はクラスで指導した方が伸びたのかいなかは供も意欲的なのだが、学力が向上したとは必ずしも言えない。反省が出された。課題別にしても同じ授業は面白く子自体の工夫と学力向上が合うことが課題である。

②評価のあり方
・各コースの担当が評価した情報を担任と交流する効果的な方法を研究する。また、毎時の評価が授業に生かされていない現状を改善する。
（算数の授業が毎日のようにあることがネックになっている。情報を交流させる場が確保されていない。のびっこタイムを定着のために活用していくには、担任の手をかりる必要がある。）

③学習環境のあり方
・学年の算数掲示板（基本的には単元の流れが分かる）、各教室の算数コーナー（基本的には、子供の活動が分かる、理解の助けとなる）のレベルアップを図るために来年度は、学年団制で協力しあう。

④授業改善
・国算テストより、本校の児童は、計算はできるが、なぜそうなるかといった考え方の部分や文章問題が苦手なことがはっきりした。そのため答えが出るまでの過程を大切にすることや、自分の考えをしっかりもつこと、人の考えを理解するために重点をおいていく。
・ワークシートや意見交流の場を授業の中で設定し、教師がいか子供の活動を見取るか、子供たちの考えをいかに取り上げ、コーディネイトするかが大切であると共通理解された。そのためにどうすればいいかを研究する。
・発展教材や補充的な教材の開発

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

・算数だよりを発行し、家庭からの返信より家庭から見た児童の学習への取組の変容を捉える。
・国算テストの結果より、各学年定着の低い領域を「のびっこタイム」を利用してプリント学習を行う。２月１６日に再度、取り組んだ領域についてテストを行い、定着の様子を確認する。それでも定着しないものについては、３学期終了までに個別の指導で定着を図る。
・算数アンケートの実施。今までは、各学年が独自に行ってきたが、２月より学校統一で行うことにした。アンケートを行うことで、算数に対する意識の変化を捉え、授業改善にいかしたいと考えている。来年度は６月と１１月に同じアンケートを実施する予定である。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○Ｈ１６．２．１８（水）中間発表会を開催予定
・本校の１年間の取り組みのまとめとして３年生の習熟度別学習「かけ算」と６年生の習熟度と課題別を合わせた学習「６年生のまとめ」を授業公開する。
市内外から７０名程度が参加予定である。普及というよりは、本校の取り組みに対しての意見を外部からの参加の方々よりいただき、来年度に向けて修正していくのが目的である。

◎Ｈ１７．１．２８（金）研究発表会を開催予定
・低学年のＴＴ、３年生においては１年間を通した算数クラス、習熟度別学習、課題別の学習を公開する。
子供の学力を向上させるための指導体制のあり方、評価のあり方、学習環境のあり方、子供同士の関わりや有効な教師の出方に着目した授業改善、等の本校の研究成果を発表したい。

○指定を受けた昨年５月に、熱海第二小の要請訪問を参観させて頂いた。少人数の年間計画や、工夫された単元計画などたくさんのことが参考になり、その後の本校の研究のもとになった。また、中間発表会後は、生活に生かせる学力や算数掲示、算数クラス、発展教材などにおいても参考になっている。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックするｖこと。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　☐ １４年度からの継続校

【学校規模】　☐ ６学級以下　☐ ７～１２学級　☐ １３～１８学級　☑ １９～２４学級　☐ ２５学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ．Ｔによる指導　☑ 一部教科担任制　☐ その他

【研究教科】　☐ 国語　☐ 社会　☑ 算数　☐ 理科　☐ 生活　☐ 音楽　☐ 図画工作　☐ 家庭　☐ 体育　☐ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　☐ 無